

# みやぎ経済月報

(2006年9月)

平成18年9月25日

## 目次

本県の経済概況	1
主な指標の動き	3
鉱工業生産指数	7月 3
大口電力使用量	7月 3
新設住宅着工戸数	7月 4
公共工事請負金額	8月 4
大型小売店販売額	7月 5
乗用車新車登録台数	7月 5
消費者物価指数	8月 6
求人倍率	7月 6
所定外労働時間	7月 7
実質賃金指数	7月 7
企業倒産	8月 7
宮城県景気動向指数(概要)	8
全国・東北等の景況	9
主要経済指標	12
宮城の経済動向 平成18年第2四半期 (4月～6月期)	34

## 利用される方に

この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によったもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合があります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

統計表の符号は次のとおりです。

- 「 」 …… 負数
- 「…」 …… 数字が得られないもの
- 「-」 …… 該当数字がないもの
- 「p」 …… 速報値または暫定値

**原則として、みやぎ経済月報は毎月最終月曜日頃に公表しています。**

内容についてのご照会、ご意見は、  
宮城県企画部統計課(分析所得班)  
〒980-8570  
仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
電話 022-211-2453(直通)  
にご連絡下さい。

本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

宮城県統計課ホームページ  
<http://www.pref.miyagi.jp/toukei/>

# 本県の経済概況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨は変化方向)

7月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は、持家は低調ではあるが、このところ増加しており、貸家、分譲住宅は足元低調である。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、改善の動きがみられる。企業倒産は、件数は横ばい、負債総額は減少した。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きを続けている。

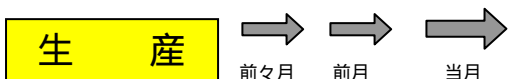


## [前月の概況]

6月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は、持家は低調ではあるが、このところ増加しており、貸家、分譲住宅は足元低調である。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、改善の動きがみられる。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きを続けている。

⇨ は月の変化方向。



鉱工業生産指数(7月)は、前年同月比が9か月連続の上昇となった。前月比は、2か月連続の上昇となった。大口電力使用量(7月)は、前年同月比が12か月連続の増加となった。



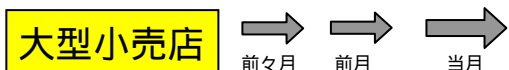
新設住宅着工戸数(7月)は、前年同月比が持家は4か月ぶりに減少、貸家は2か月ぶりに減少となった。分譲住宅は3か月ぶりに増加となった。

全体では2か月ぶりに減少となった。



公共工事請負金額(8月)は、前年同月比が国は2か月ぶりに増加、県は2か月ぶりに増加、市町村は2か月ぶりに増加となった。

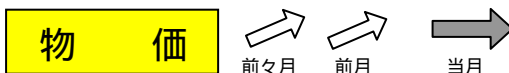
全体では2か月ぶりに増加となった。



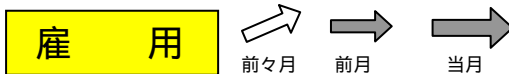
大型小売店販売額(7月、百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同月比が7か月連続の減少となった。百貨店は前年同月比が5か月ぶりに減少、スーパーは前年同月比が46か月連続の減少となった。



乗用車新車登録および届出台数(7月・普通、小型、軽自動車の合計)は、前年同月比が2か月ぶりに減少となった。前年同月比は普通車が14か月連続の減少、小型車は4か月連続の減少、軽自動車は7か月連続の増加となった。

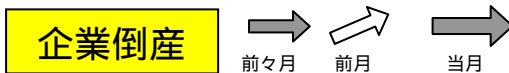


仙台市消費者物価指数(平成12年=100)(7月)は、生鮮食品を除く総合指数は、前年同月比が7か月連続の上昇となった。総合指数は、前年同月比が7か月連続の上昇となった。



求人倍率(7月)は、有効は9か月ぶりに低下となった。新規は2か月連続の低下となった。

所定外労働時間(製造業・30人以上)(7月)は、前年同月比が増加となった。実質賃金指数(同)(7月)は、前年同月比が低下となった。

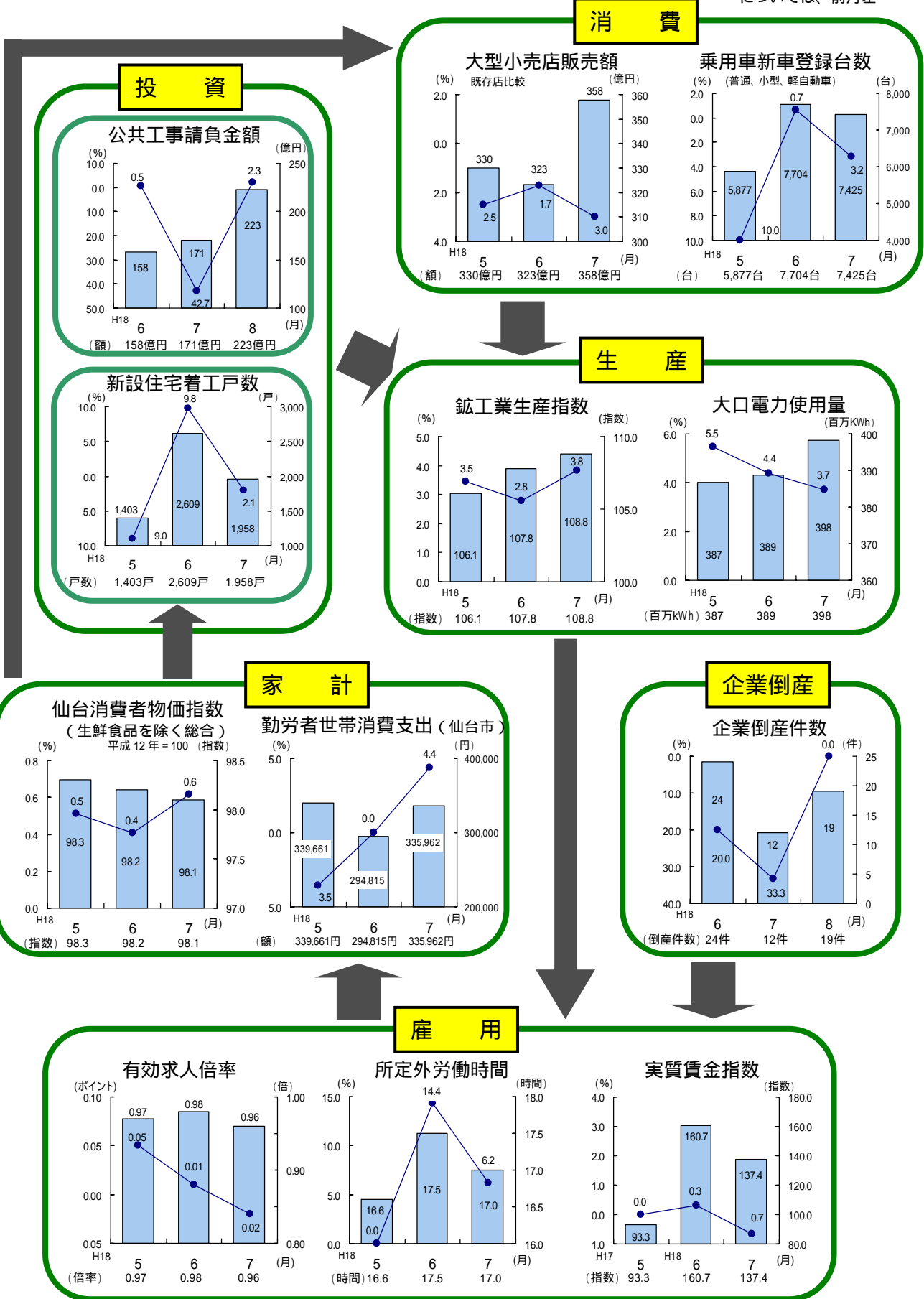


企業倒産(8月)は、件数は前年同月と同水準になった。負債総額は前年同月比が3か月連続の減少となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は、1件発生した。

直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

■ は実数値(左目盛)  
●-● は前年同月比の推移(右目盛)  
については、前月差



# 主な指標の動き

## 1 生産

### (1) 鉱工業生産指数

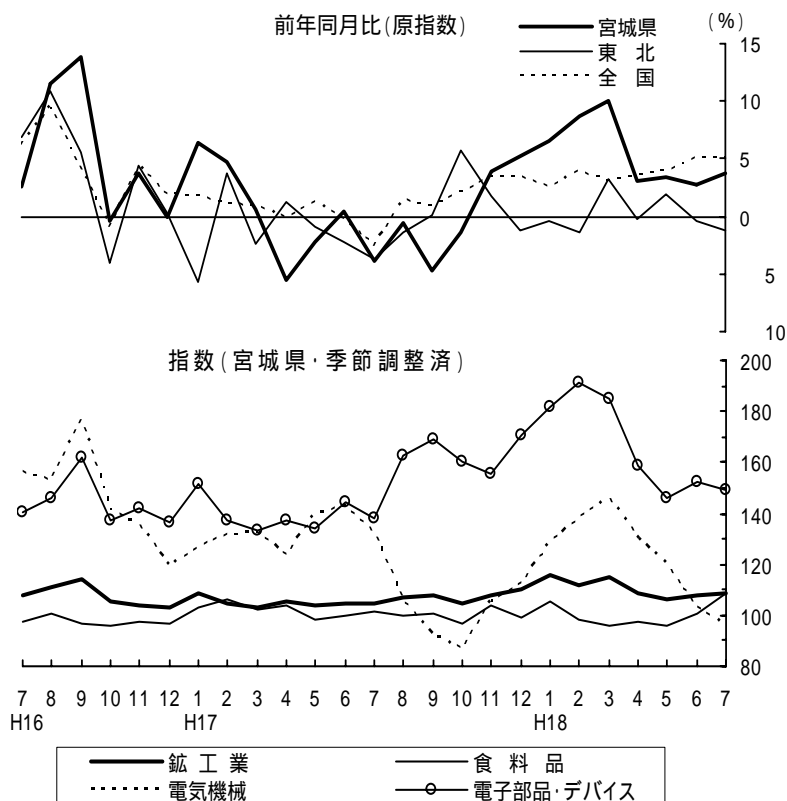
7月の鉱工業生産指数(季節調整値、平成12年=100)は108.8(速報値)で、前年同月比(原指数比較)3.8%の上昇となり、9か月連続の上昇となった。

業種別の前年同月比をみると、電子部品・デバイス工業、食料品工業、精密機械工業など12業種が上昇となった。

一方で、電気機械工業、繊維工業、プラスチック製品工業など7業種が低下となった。

前月比は0.9%の上昇となり、2か月連続の上昇となった。

(資料：県統計課)

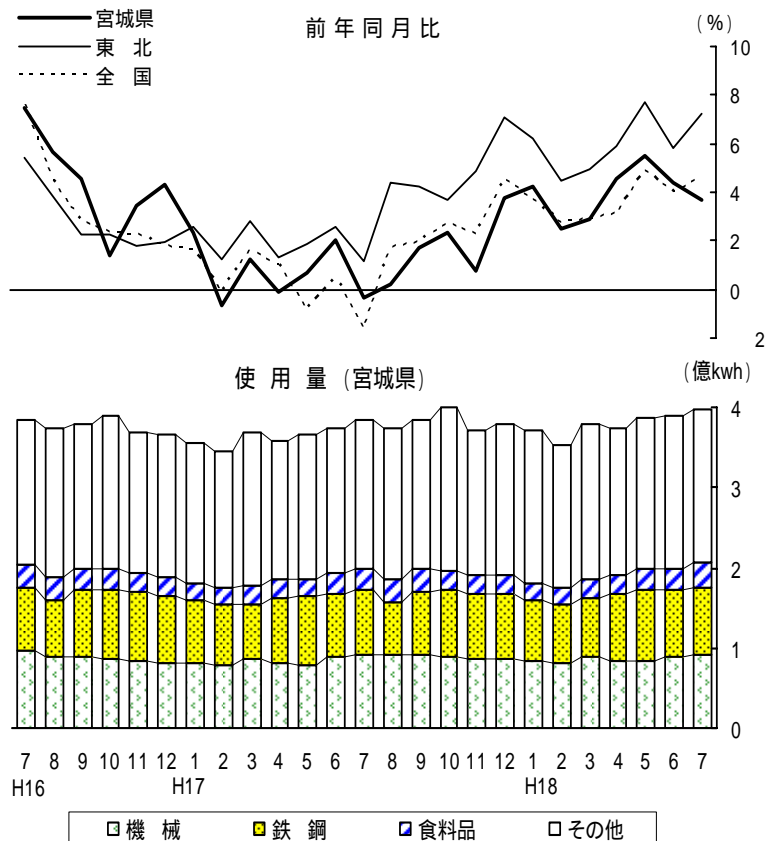


### (2) 大口電力使用量

7月の大口電力使用量(契約電力500kw以上)は3億9,814万kWhで、前年同月比3.7%の増加となり、12か月連続の増加となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると、機械分野は0.2%の増加となり、12か月連続の増加となった。食料品分野は13.1%の増加となり、5か月連続の増加となった。鉄鋼分野は4.7%の増加となり、5か月連続の増加となった。

(資料：東北電力(株))



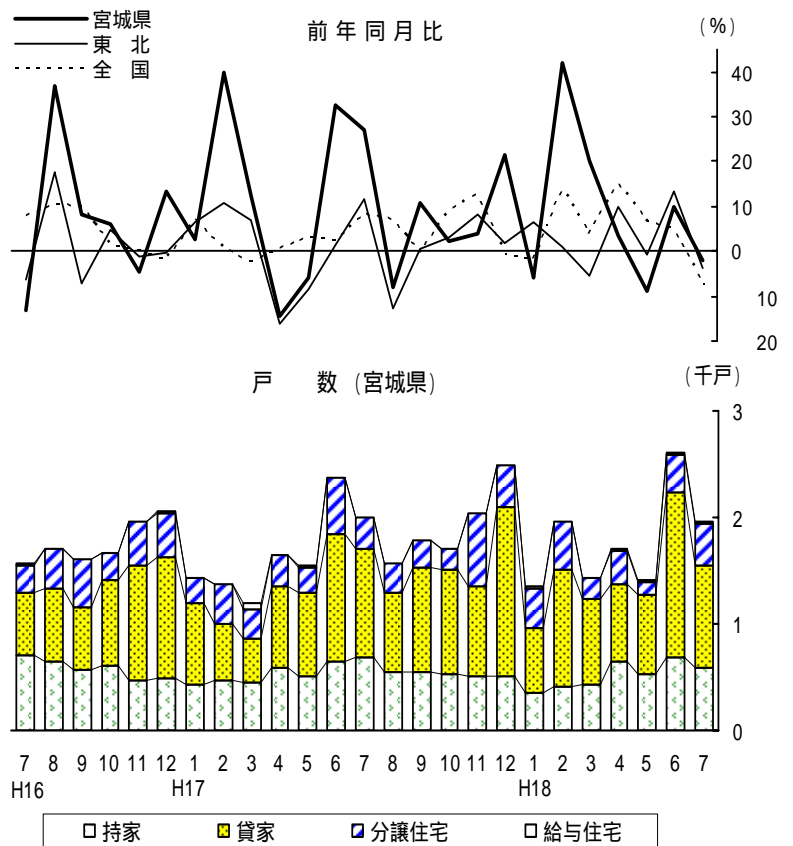
## 2 投 資

### (1) 新設住宅着工戸数

7月の新設住宅着工戸数は1,958戸で、前年同月比2.1%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。

利用関係別に前年同月比をみると、持家は13.1%の減少となり、4か月ぶりに減少となった。貸家は7.5%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。分譲住宅は43.3%の増加となり、3か月ぶりに増加となった。分譲住宅のうちマンションは56.3%の増加となり、3か月ぶりに増加、分譲住宅のうち一戸建ては26.6%の増加となり、2か月連続の増加となった。

(資料：国土交通省)

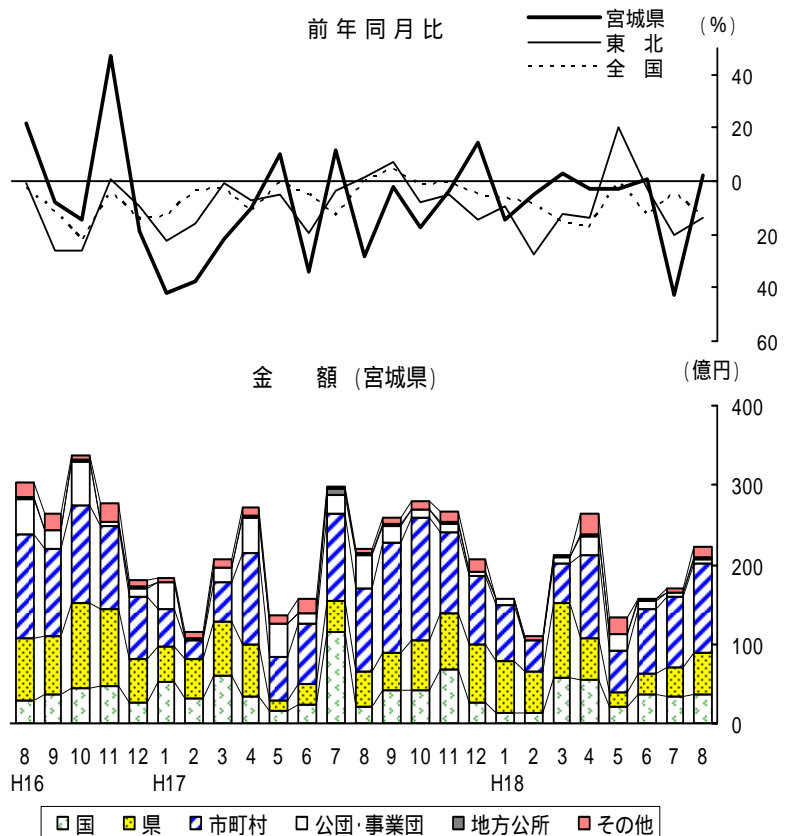


### (2) 公共工事請負金額

8月の公共工事請負金額は22億2,700万円で、前年同月比2.3%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は70.2%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。県は22.5%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。市町村は6.0%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。

(資料：東日本建設業保証(株))



### 3 消 費

#### (1) 大型小売店販売額

7月の大型小売店販売額は357億6,300万円で、前年同月比は既存店比較で3.0%の減少となり、7か月連続の減少となった。

業態別にみると、百貨店は114億400万円で、前年同月比は既存店比較で0.4%の減少となり、5か月ぶりに減少となった。スーパーは243億5,900万円で、前年同月比は既存店比較で4.3%の減少となり、46か月連続の減少となった。全店舗比較では2.6%の増加となり、5か月連続の増加となった。

商品目別(既存店比較)にみると、百貨店は身の回り品などが増加したが、衣料品や飲食料品などが減少し、スーパーは、主力の飲食料品や衣料品などが減少した。

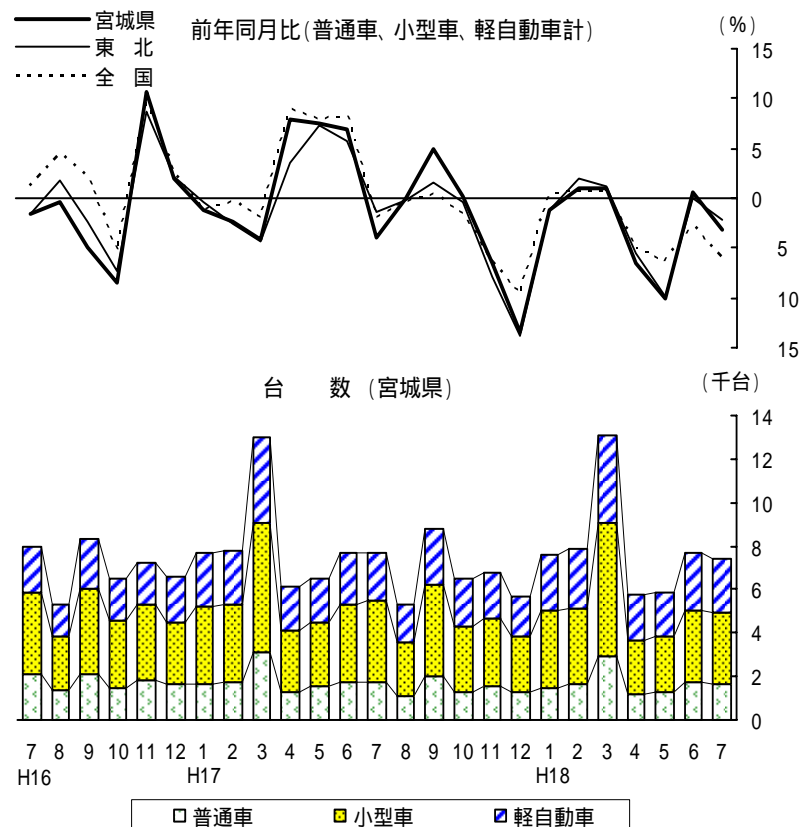
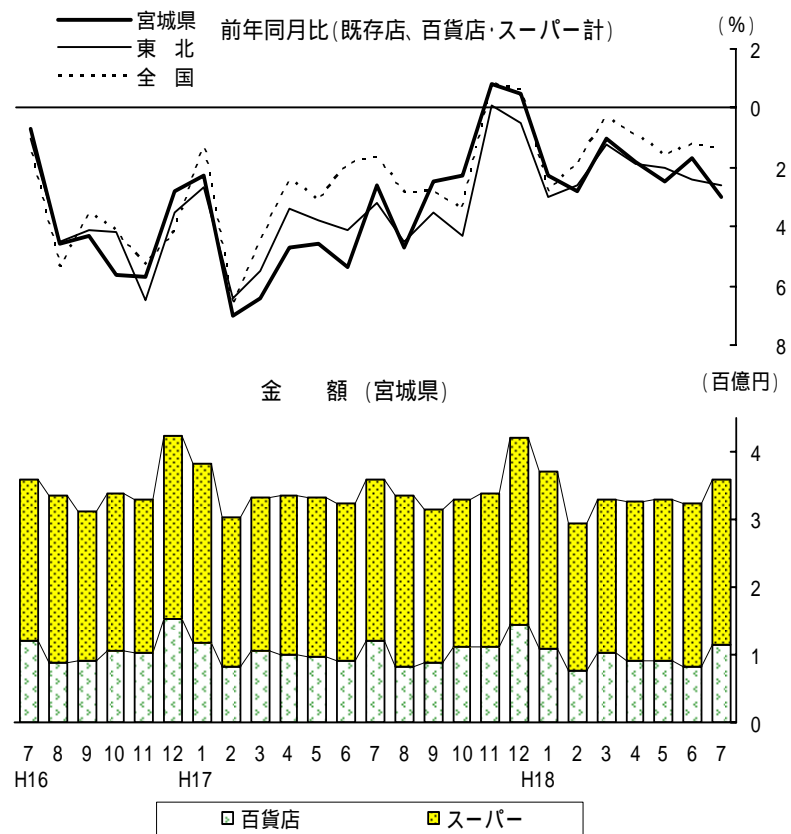
(資料：東北経済産業局)

#### (2) 乗用車新車登録台数

7月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は7,425台で、前年同月比3.2%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。

車種別に前年同月比をみると、普通車(排気量2,000cc超)は2.0%の減少となり、14か月連続の減少となった。小型車(排気量2,000cc以下)は12.8%の減少となり、4か月連続の減少となった。軽自動車は12.4%の増加となり、7か月連続の増加となった。

(資料：自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車連合会)



## 4 物 価

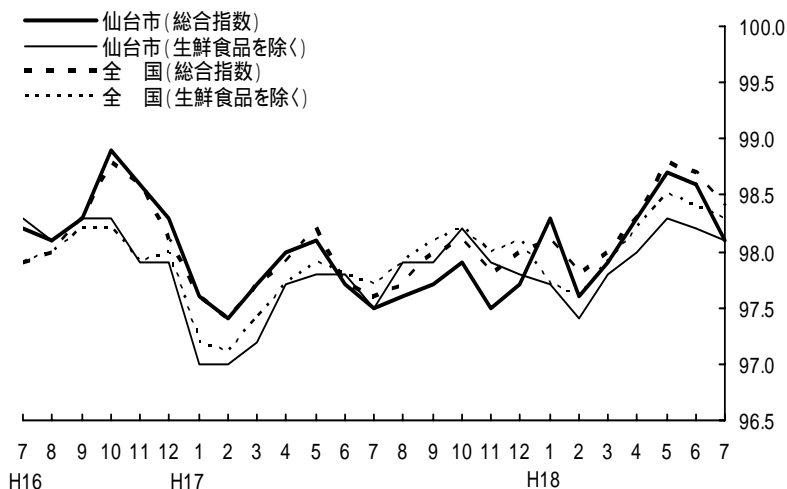
7月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成12年=100)は98.1で、前年同月比0.6%の上昇となり、7か月連続の上昇となった。

総合指数(同)は98.1で、前年同月比0.6%の上昇となり、7か月連続の上昇となった。

10大費目別に前年同月比をみると、光熱・水道、被服及び履物などが上昇となり、住居、保健医療などが下落した。

(資料:県統計課)

消費者物価指数



## 5 雇 用

### (1) 求人倍率

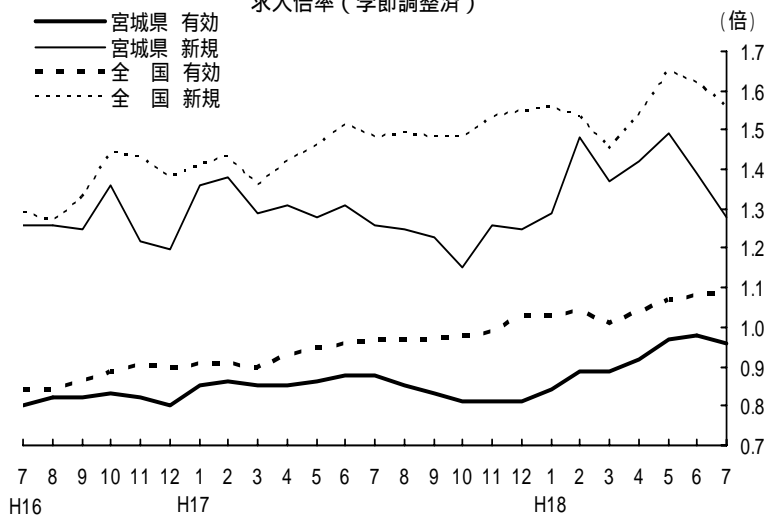
7月の有効求人倍率(求人数/求職者数、季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は0.96倍で、前月を0.02ポイント下回り、9か月ぶりに低下となった。新規求人倍率(同)は1.28倍で、前月を0.11ポイント下回り、2か月連続の低下となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効が前年同月比7.2%の増加となり、6か月連続の増加となった。新規は前年同月比3.4%の増加となり、6か月連続の増加となった。

新規求人数を産業別にみると、サービス業、情報通信業などが増加となり、製造業、建設業が減少となった。

(資料:宮城労働局)

求人倍率(季節調整済)

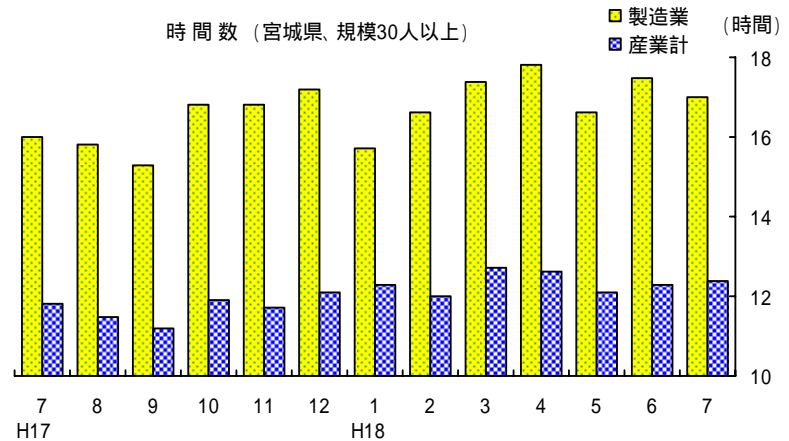


## (2) 所定外労働時間

7月の所定外労働時間(製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間)は17.0時間で、前年同月比6.2%の増加となった。

調査産業全体(事業所規模30人以上、1人平均月間)では所定外労働時間は12.4時間で、前年同月比5.1%の増加となった。

(資料: 県統計課)

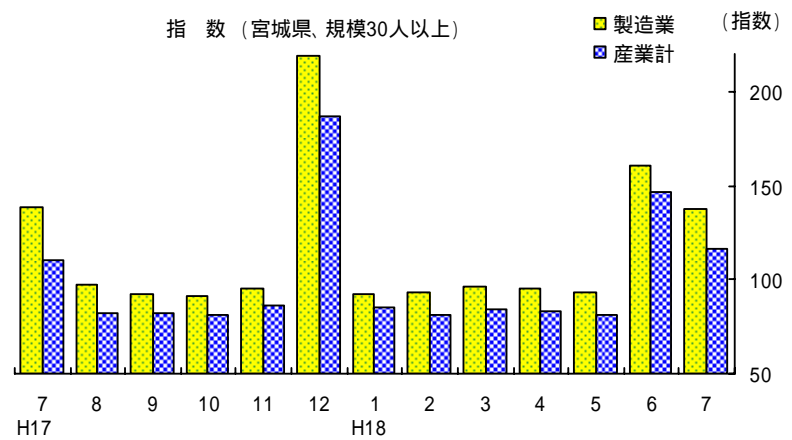


## (3) 実質賃金指数

7月の実質賃金指数(平成12年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模30人以上)は137.4で、前年同月比0.7%の低下となった。

調査産業全体では116.2で、前年同月比4.9%の上昇となった。

(資料: 県統計課)

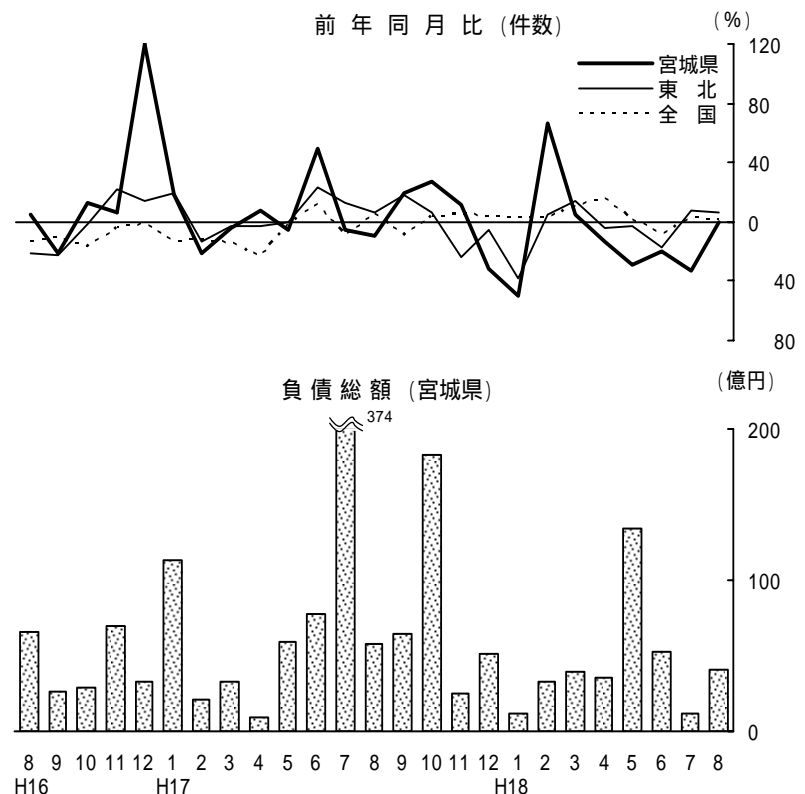


## 6 企業倒産

8月の企業倒産(負債総額1,000万円以上)は19件で、前年同月と同水準になった。負債総額は40億1,900万円で、前年同月比31.2%の減少となり、3か月連続の減少となった。大型倒産(負債総額10億円以上)は、1件発生した。

不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は13件となり、全体に占める構成比は68.4%となった。

(資料: 株東京商工リサーチ)





# 宮城県景気動向指数（概要）

## 1 概況

7月の景気動向指数は、**先行指数44.4%**、**一致指数44.4%**、**遅行指数42.9%**となった。

先行指数は12か月ぶりに50%を下回った。

一致指数は2か月連続で50%を下回った。

遅行指数は2か月ぶりに50%を下回った。

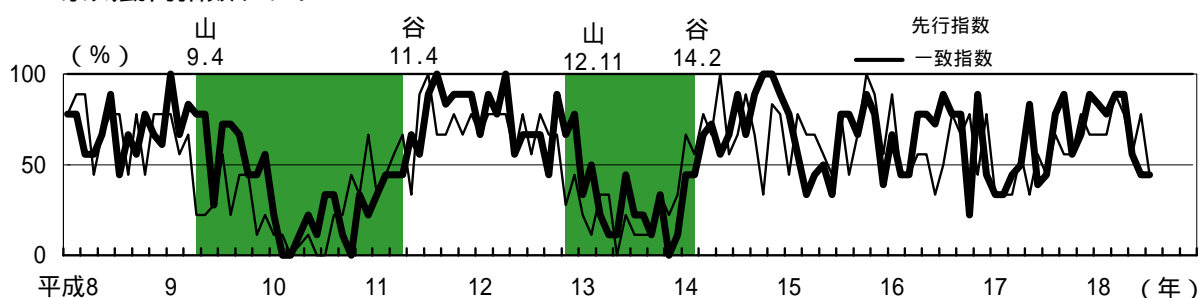
## 2 景気動向指数変化方向表

系列名	季	平成17年			平成18年							順位	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
先行系列	L1 新規求人数(学卒除く,パート)	季	-	+	-	+	+	+	+	+	+	-	1
	L2 所定外労働時間指数(製造業)	季	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	2
	L3 生産財生産指数	季	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	3
	L4 日経商品指数(42種)	前	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	4
	L5 乗用車新規登録台数(軽含む)	季	-	-	-	-	-	+	+	-	+	-	5
	L6 新設住宅着工床面積	季	+	-	+	-	+	+	-	-	+	-	6
	L7 人員整理状況(解雇件数)	季,逆	-	+	-	+	-	+	+	+	-	+	7
	L8 全銀貸出残高	前	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+	8
	L9 中小企業業界景況感	前	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	9
拡張系列数			5.0	7.0	6.0	6.0	6.0	8.0	7.0	5.0	7.0	4.0	
採用系列数			9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
先行指数(DI)			55.6	77.8	66.7	66.7	66.7	88.9	77.8	55.6	77.8	44.4	
一致系列	C1 雇用保険受給者実人員	季,逆	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1
	C2 有効求人倍率(合計)	季	-	-	-	0	+	+	+	+	+	+	2
	C3 労働生産性指数(製造業)	季	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	3
	C4 鉱工業生産指数	季	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	4
	C5 大口電力使用量	季	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	5
	C6 実質大型小売店販売額(面積当)	前	+	+	+	+	+	+	-	-	-	+	6
	C7 建築着工床面積	季	-	-	+	-	-	-	+	+	+	-	7
	C8 企業収益率(製造業)	季	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	8
	C9 輸入通関実績	季	-	-	+	+	-	+	+	+	-	-	9
拡張系列数			5.0	6.0	8.0	7.5	7.0	8.0	8.0	5.0	4.0	4.0	
採用系列数			9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
一致指数(DI)			55.6	66.7	88.9	83.3	77.8	88.9	88.9	55.6	44.4	44.4	
遅行指数	Lg1 常用雇用指数(製造業)	前	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	Lg2 投資財生産指数	前	-	+	+	-	-	+	+	+	+	+	2
	Lg3 消費者物価指数(仙台市)	前	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	3
	Lg4 勤労者世帯消費支出(仙台市)	前	+	+	+	+	+	-	-	-	+	-	4
	Lg5 営業倉庫保管残高	前	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	Lg6 不渡手形発生率	季,逆	+	-	-	+	-	-	-	-	+	-	6
	Lg7 法人事業税調定額	季	+	+	+	-	+	-	+	-	-	+	7
	拡張系列数			5.0	5.0	3.0	2.0	4.0	2.0	3.0	2.0	4.0	3.0
採用系列数			7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
遅行系列(DI)			71.4	71.4	42.9	28.6	57.1	28.6	42.9	28.6	57.1	42.9	

(注) 1 季は季節調整済(センサス局法X-12-ARIMA)。前は前年同月比。逆は逆サイクル。

2 各系列の変化方向は、5か月前との比較による。

## 3 景気動向指数グラフ



# 全国・東北等の景況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨は変化方向)

## 1 全国の景況

月例経済報告(内閣府) ⇨ ⇨ ⇨ 9月15日 [ <http://www.cao.go.jp/> ]  
前々月 前月 当月

景気は、回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・個人消費は、このところ伸びが鈍化している。
- ・輸出は、横ばいとなっている、生産は、緩やかに増加している。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

8/8 景気は、回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出、生産は緩やかに増加している。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある

金融経済月報(日本銀行) ⇨ ⇨ ⇨ 9月11日 [ <http://www.boj.or.jp/> ]  
前々月 前月 当月

わが国の景気は、緩やかに拡大している。

公共投資は減少傾向にあるが、輸出は増加を続けている。また、企業収益が高水準で推移する中、設備投資は引き続き増加している。雇用者所得も緩やかな増加を続けており、そのもとで個人消費は増加基調にある。住宅投資も、振れを伴いつつ緩やかに増加している。このように、内外需要の増加が続く中で、生産も増加を続けている。

先行きについても、景気は緩やかな拡大を続けるとみられる。

8/14 わが国の景気は、緩やかに拡大している。

公共投資は減少傾向にあるが、輸出は増加を続けている。また、企業収益が高水準で推移する中、設備投資は引き続き増加している。雇用者所得も緩やかな増加を続けており、そのもとで個人消費は増加基調にある。住宅投資も緩やかに増加している。このように、内外需要の増加が続く中で、生産も増加を続けている。先行きについても、景気は緩やかな拡大を続けるとみられる。

## 2 東北の景況

東北経済産業局管内の経済動向(東北経済産業局) ⇨ ⇨ ⇨ 9月21日 [ <http://www.tohoku.meti.go.jp/> ]  
前々月 前月 当月

全体の動向：東北の経済は緩やかに改善している。

- ・鉱工業生産：緩やかな上昇傾向で推移している。
- ・個人消費：一部に弱い動きが残るものの持ち直しの動きが見られる。
- ・住宅着工：分譲が増加しているものの、持家、貸家が減少している。
- ・公共投資：全体としては低調である。
- ・設備投資：製造業、非製造業ともに積極的な投資の動きが見られる。

- ・雇用：依然地域差が残るものの、改善の動きがみられる。
- ・企業倒産：件数、負債総額とも落ち着いている。

- 8/17 全体の動向：東北の経済は緩やかに改善している。
- ・鉱工業生産：緩やかな上昇傾向で推移している。
  - ・個人消費：一部に弱い動きが残るものの持ち直しの動きがみられる。
  - ・住宅着工：持家、貸家、分譲とも増加している。
  - ・公共投資：全体としては低調であるが、国関係事業に動きがみられる。
  - ・設備投資：製造業、非製造業ともに積極的な投資の動きがみられる。
  - ・雇用：依然地域差が残るものの、改善の動きがみられている。
  - ・企業倒産：件数、負債総額とも落ち着いている。

### 管内の金融経済概況（日本銀行仙台支店）



9月4日 [ <http://www3.boj.or.jp/senn dai/index.html> ]

管内（宮城、岩手、山形）経済は、緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、設備投資（6月短観調査）が増加しているほか、住宅投資も高水準を維持している。また、個人消費は底堅く推移している。一方、公共投資は減少傾向にある。

こうした中、生産が増加傾向にあるほか、雇用情勢も改善傾向にある。

- 7/31 管内（宮城、岩手、山形）経済は、緩やかに回復している。
- 最終需要の動向をみると、設備投資（6月短観調査）が増加しているほか、住宅投資も高水準を維持している。また、個人消費は天候不順の影響がみられるものの、基調としては底堅く推移している。一方、公共投資は減少傾向にある。
- こうした中、生産が増加傾向にあるほか、雇用情勢も改善傾向にある。

## 3 宮城の景況

### 県内景気の動き（七十七銀行）



9月19日 [ <http://www.77bank.co.jp> ]

7月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、緩やかながらも持ち直しの動きとなっている。生産面では、鉱工業生産が高水準を維持しつつ、基調としては緩やかな上昇の動きを続けている。一方、需要面では、個人消費が総じて底堅い動きとなっている。公共投資は引き続き低調に推移しているが、住宅投資は増加傾向となっている。また、雇用情勢では、有効求人倍率が改善の動きを続けている。

- 8/22 6月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、緩やかながらも持ち直しの動きとなっている。
- 生産面では、鉱工業生産が高水準を維持しつつ、基調としては緩やかな上昇の動きを続けている。一方、需要面では、個人消費が総じて底堅い動きとなっている。公共投資は引き続き低調に推移しているが、住宅投資は増加傾向となっている。また、雇用情勢では、有効求人倍率が改善の動きを続けている。